愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2025年度	開講期(Semester)	前期
授業科目名(Course name)	専門演習Ⅲ		
担当者(Instructors)	白井 克尚	配当年次(Dividend year)	4
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	必修

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

卒業研究のテーマを各自が設定して研究を進める。テーマは、すぐれた教育・保育実践の事例分析・開発研究に関することなどである。この授業の大きな目標は、１研究テーマの決定、２研究の計画を立てる、３研究方法の確定である。同時に、話す・聞く力も育てる。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	演習
授業の方法(Class method)	自分の研究の進行を報告しつつ、他の者の話を聞き参考にして、お互いが刺激し合い、研究を深めていく。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	自分の研究テーマの発表	卒業研究についての説明を聞く。その上で、自分の関心のある研究テーマをいくつか発表し、卒業研究としての価値、方法は妥当か、期限までにできあがるものであるか等について検討する。	□
第2回	研究計画の発表	自分の研究計画を発表する。研究テーマにあった研究方法であるかどうか、実際に可能な研究方法であるかを検討する。	□
第3回	研究方法の検討（概略）	自分の研究方法を発表する。研究テーマにあった研究方法であるかどうかを検討する。	□
第4回	研究に際しての倫理事項の検討	研究を行う際の個人情報の取り扱いや、文章引用の仕方など、研究倫理を学ぶ。	□
第5回	調査に関わる資料（アンケート項目等）の作成	調査を行う場合の質問用紙等は、繰り返し推敲する必要のあることを知る。挨拶文や言葉遣いも検討する。	□
第6回	調査に関わる資料（アンケート項目等）の検討	研究・調査するときのルールや礼儀を学ぶ。予備調査の完成をめざす。	□
第7回	研究の進行状況の発表：口頭発表	各自の研究の進行状況について、口頭で発表する。発表に際して、他の者との質疑応答をしながら、自分の研究を深める。	□
第8回	研究上の問題について	進行状況を報告しつつ、研究を進める上で、困難なことや手助けが必要なことについて検討する。	□
第9回	先行研究について	研究に関する先行研究について検討する。	□
第10回	研究方法の検討（具体的に）	各自が、自分の研究で実際に行う研究方法について、具体的に発表し、不備な点を修正したり、アイデアを入れて検討する。	□
第11回	研究の進行状況の発表	研究の進行状況について、レポートとして提出する。必須事項は、テーマ・研究方法・進行状況である。	□
第12回	調査・分析の中間発表	研究・調査を行ったものについて、結果を公表し、みんなの意見を求める。	□
第13回	調査・分析結果に関する製作物の作成	調査・分析結果に関する製作物を作成する。	□
第14回	調査・分析の結果報告	これまでに研究調査を行ってきたものについて、できたところまでをまとめて、みんなの意見を求める。	□
第15回	まとめ	まとめとして、夏休みにどのような進め方をするのかを発表する。	□

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

事前学習として、次回の授業を理解するために、毎回指示するテーマや課題を予め調べておく（2時間程度）。 事後学習として、授業で扱ったテーマや課題について関連資料を参照しながら復習する（2時間程度）。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

研究成果の発表は、感想交流を通してフィードバックし、全体で共有する機会を持つ。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
知識・技能	◇ 2019子ども発達DP1	自分の興味関心に基づいた研究テーマを決定することができる。
思考力・判断力・表現力	◆ 2019子ども発達DP2	研究計画を具体的にしっかりと立てることができる。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
0%	0%	0%	60%	40%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

調査・研究の取り組みの様子や作成した製作物の内容から、思考力・表現力・判断力が身についたかを評価する。

■テキスト(Textbooks)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	授業の中で、適宜紹介する。	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	佐藤学『教師花伝書』小学館,2009年	
2	秋田喜代美・佐藤学『新しい時代の教職入門』有斐閣アルマ,2006年	
3	秋田喜代美『学びの心理学 授業をデザインする 』左右社,2012年	
4	田中耕史・石井英真『教育をよみとく―教育学的探究のすすめ』有斐閣,2017年	
5	秋田喜代美・佐藤学『教育研究のメソドロジー―学校参加型マインドへのいざない』東京大学出版会,2005年	